

進捗状況の概要

「学生の県内就職率 10%アップ」を目指し、各校がそれぞれの推進体制を整備するとともに、参加大学や秋田県、経済団体等との協働により、「3本の柱」による取組を進めました。

「第1の柱」は「秋田おらほ学」の展開であり、各大学の特徴に即した、ふるさと秋田についての魅力を伝える体制を整え、地域アイデンティティを持つ学生を育成する取組です。

秋田大学では、平成 26 年度からスタートした教育文化学部地域文化学科 (100 名) が 2 年目を迎え、地域を体験的に理解するための「CC: コア・カリキュラム (フィールドワークと地域連携)」を構成する「地域学基礎」、「地域社会基礎ゼミ」実施などにより、地域現場の分析力に優れ、「改善」を企画提案できる現場実践人の養成を進めるとともに、「地域連携プロジェクトゼミ」のパートナー企業の確保を進めました。

秋田県立大学においては、平成 29 年度から全員必修となる「あきた地域学課程」実施に向け、既存授業での試行とともに、同課程で導入予定のフィールドワーク研修を 2 自治体 (美郷町・三種町) で実施し、地域課題への理解を深めました。

秋田工業高等専門学校においては、各学科に 2 名以上の地方創生担当教員を配置し、翌年度開講の地域史や地域産業の授業準備を進めるとともに、COC+講演会、COC+研究会を計 4 回実施しています。

「第2の柱」は地元企業群との連携による就業支援であり、各大学においてインターンシップの取組や県内企業とのマッチングを強化しています。

秋田県立大学においては、新たなインターンシップの一形態としての「ジョブシャドウイング」の試行と制度設計を民間企業との連携によって実現させ、本年度からの本格的な実施への道筋を着けることができました。

また、秋田県が策定した「あきた未来総合戦略」において雇用創出を目指す「5つの成長分野」(航空機、自動車、新エネルギー、医療福祉、情報関連)の企業を訪問し、翌年度以降におけるジョブシャドウイング等の受入を依頼し、平成 28 年度は新たに 10 社以上で実施の見込みです。

秋田工業高等専門学校においては、データに基づくコーディネート活動につなげるため、講演会の事前、事後にアンケート調査を実施し、企業が知りたい学生情報の解析を行っています。

「第3の柱」は交流人口の拡大や助け合い社会構築のモデルづくりです。

秋田大学では、地域の交流人口の拡大に向け、男鹿市との連携により、首都圏大学に対する「スポーツ合宿の誘致」に取り組み、平成 28 年度には大学フェンシング部の合宿を誘致することができました。また、県外大学からの教育実習誘致に向け、受入体制等について東成瀬村との協議をスタートさせました。

助け合い社会構築については、県内 6 大学の学生を対象にした「聞き書きボランティア養成講座」(2 回)を開催し、学生たちがコミュニケーション能力を高める手段としての「聞き書き」のスキルを学ぶとともに、地域住民から直接話を聞き、作品集にまとめる過程を通じて、学生の地域への関心を深めることができました。

また、高齢者の認知症予防に効果のある「コグニサイズ運動」の普及のため、秋田大学の教員が「国立長寿医療研究センター」での指導者研修を受講するなどの事前準備を進め、平成 28 年度から東成瀬村をフィールドに本格的に普及活動を実施しています。